

第2次派遣(会津)

5月2日(月)～5月10日(火)

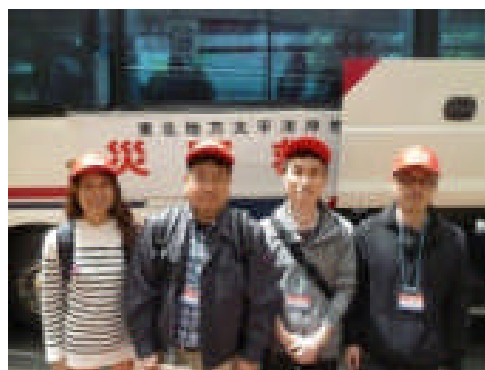
班長：河野 哲也さん (全労金)
児玉 武雄さん (中国)
片平みどりさん (九州)
小川 定弘さん (九州)

《全労金第二次派遣、出発！》 5月2日

本日、連合救援ボランティア会津BC（ベースキャンプ）に、河野書記長、片平中央執行委員、児玉中央執行委員、小川さん（九州労金労組青年委員会議長）の4名が、元気よく出発しました。今回から、会津BCは、全労金・全電線に、地方連合会からの派遣を加え、総勢27名となりました。なお、河野書記長は、会津BCの派遣団の責任者を務めることとなりました。全労金第二次派遣の4名に対して、引き続きエールをお願いします。



《派遣団を代表して挨拶をする河野書記長》



《片平さん・河野さん・小川さん・児玉さん》

《第二次派遣・二日目》 5月3日

作業初日です。全労金チームは全電線チームと一緒に7名で「物資支援センター」での活動でした。今日の主な任務は入場案内（児玉・小川）とお帰り受付（河野・片平）の担当でした。来場者は458世帯、ボランティアは44名。連休中ということもあり、第一次と比較して来場者は減ったようです。避難の皆さんは必要な物資を取りに来られますが、徐々に物資が届かなくなって、需要が高い品目（子ども用オムツや箱ティッシュ等）はストックがなくなりつつあります。残念そうに会場を後にされる被災者も少なくありません。夜の班長会議でその旨を報告し、物資調達の流れを確認してもらうようお願いしました（現地の方もわかってると思いますが）。明日も同じ任務です。来場された方からの「ありがとう。ご苦労様」の言葉を励みに、明日も頑張ります＝



《受付担当の片平さん》



《入場整理する小川さん》

《5月4日の活動》 5月4日



作業2日目。任務は昨日とほぼ同様に、来場者は460世帯でした。

この物資支援センター来場者の約9割が、原発事故エリアから避難された大熊町の方々です。あの事故から、普通の日常生活を奪われ、不自由な生活を強いられている方ばかりです。年輩のご夫婦が「うちさげえれば、なんもそろってんのに、こんなとこにやならんのはなさげねえべさ（※家に帰れば何でも揃ってるのに、何でこんな所に物をもらいにこなきゃなんないのか。情けない：河野訳）」って言われるのを聞いたり、赤ちゃんと3歳位の子どもを連れてきたお母さんが、希望通りの品目がない中でも、両手いっぱい物資を持って帰られる姿を見ると、とても切なくなります。私たちは避難者の方々とまったく同じ気持ちになることは出来ません。しかし、先がまったく見えない中で生活されている皆さんの、少しでもお役に立てればという気持ちで、明日からも頑張ります。

（※写真は入場案内のかたわらで、スリッパ並べをする児玉さん。もう1枚はセンター出入口の外で、来場者向けに臨時的「Cafe」を開いた電機連合の山下さん。神奈川からご家族の皆さんと共に、自前のコーヒーセットを持参され、来場者に振る舞われていました。味はスニバに負けない位、美味でした）

《子どもの日の活動》 5月5日



今日は子どもの日。お子さんにはシャボン玉や、お手製の「ピカチュウかぶと」を差し上げて喜ばれました。来場者は438世帯。ちょっと少なめでした。ただ、少ないながらも春物の洋服やカバンが届いたり、終了間際には待望のオムツが届いてセンターも活気づきました。実は昨夜の班長会議でセンターの実状を報告したところ、郡山チーム（※地方連合会の皆さんで構成されています）の活動拠点でオムツが余っているということだったので、回してもらえたのです。連合の連携プレーが功を奏しました。

さて、今日は全労金チームとともに支援物資センターで活動している全電線の3名を紹介します。3名ともに真面目で口数が少なく働き者ではありますが、活動以外の素顔を交え



ながら紹介します。

煙草を止めた！と豪語しましたが、よくよく聞いてみると1週間に1回は吸っている事実が判明し大ブーイングを浴びた田辺さんは古河電工労組出身。花粉症に悩まされています（※写真一番左）。

5月4日は、ボランティアさんに3人も「山田姓」がいたという事実を掴むなど好奇心旺盛なのは、田辺さんと同じく古河電工労組出身の山田さん。過去には多大なストレスから、原チャリを衝動買いしつつも、きちんとヘルメットを装着し、かつ制限速度内で夜の道路をつつ走ったという逸話の持ち主でもあります（※写真真ん中）。

最後に一番若い羽田さん（全電線チームの班長）は乙女座。受付の鉛筆立てを段ボールで作っ

たり、子供向けにピカチュウの切り張りで体育館を飾付けたりと感性豊かな好青年です。現在は全電線で専従をされています（※写真右）。

以上、非常に個性豊かな3人です。名前に全員田がつくので「田んぼ三兄弟」と呼ぶことにしました（紹介者：片平中執）。

《折り返し日の活動です》 5月6日



今日は、児玉中執の報告です。

第二次派遣も折り返し日を迎え、作業4日目となりました。引き続き支援物資センターにて活動しています。連休中にセンターに来場される方は概ね430～470世帯でしたが、本日は平日と言うこともあり、639世帯の方が来場されました。ただ、この間もお知らせしている通り、限られた物資での活動となっています。若干ストックがある物資や何とか手配が出来た紙オムツも、全てを出すと瞬く間に無くなってしまうため、世帯や人数ごとに数量を限定し、必要としている人に行き渡るようにセンター統括の社会福祉協議会の方や地元のボランティアの方々と相談しながら対応しています。決まり文句ではありませんが、

あらためて私たちの生活に物が溢れていることを痛感しています。センターのボランティアには連合とは別に一般の方々もいらっしやいます。毎日平均で50～70名の方が私たちと一緒に支援活動をされています。一般ボランティアの方々の年齢、職種も様々で、年配の方から大学生、高校生もいます。毎日活動されている地元の主婦の方もいます。中には実際に震災を受けて避難され、少しでも力になりたいと活動されており本当に頭が下がる思いです。
4月下旬に開催されたボランティアミーティングでは、今回の活動に携わり良かったと感じたことに『利用されている方からの感謝の声』や『皆さんから力をもらった』。なかでも一番多かったのが『ボランティアのみんなとの出会い』との声がだされたそうです。『人と人との繋がり』『絆』それが困難な状況を乗り越える力になる。私たちの労働組合活動と同じです。会場には支援物資と一緒に全国から多くのメッセージが届けられて壁に貼られており、勇気づけられます。残りの期間も多くの方と連携し絆を深め、復興に向けて力になれるように頑張ります＝（写真はセンターに登録されているボランティアの名札とメッセージ。また、第一次に引き続き、激励に『ぼなり』を訪問された渡部中執を囲んで。差し入れありがとうございました）

《みんなの絆》 5月7日

今日の報告は九州労組青年委員会の小川議長です。

昨日に引き続き「支援物資センター」での活動です。今日の来場者数は442世帯と少なめでした。やはり、平日に比べて、土日祝日の来場者数は減る傾向にあるようです。今日は朝から支援物資が届きました。私たちがセンターに到着すると既にトラックが横付けされており、朝一番に30箱以上をバケツリレーで搬入し、清々しい汗をかきました。やっぱり物が届くと、テンションが上がります。物資の内容は、子供用オムツ・粉ミルク・タオル・下着類・洗剤等でした。ここ2日極端に物資が不足していたこともあり、朝は多少物がある感じでしたが、それも朝の1時間程で瞬く間に無くなりました。まだまだ物資は不足している現状です。



また、今日は昼過ぎに震度3の地震がありました。建物が一部が振動し大きな音が響き渡りました。こちらに来てから、毎日余震が起きていますが、大半は震度1や2です。ちなみに河野書記長は震度1の余震も感じとるなど、全労金チームの中で抜群の危機管理能力を発揮しています。

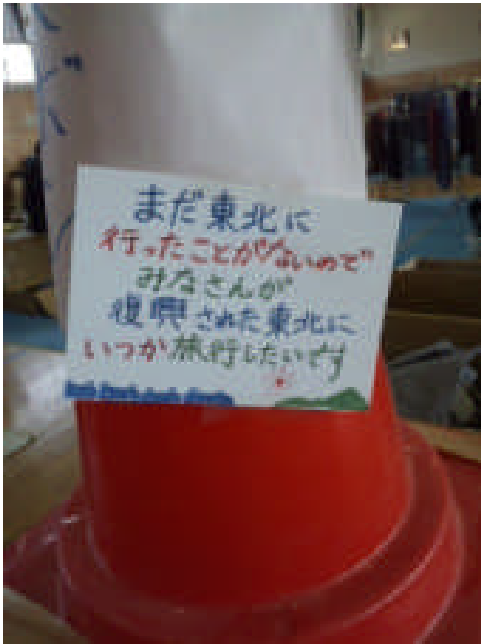
なお、このセンターでは、私たち連合チームの他に、地元の方を中心に、毎日30～60名が活動されています。自身も被災者でありながら、ボランティア活動に励まれている方

々もおりに本当に頭が下がります。私もセンターの活動を始めて5日になり、会話も増えてきました。今日は、ボランティアの遠藤さんより、手作りの小物入れやティッシュケースをいただきました（写真参照）。ここでの出会いや交流も大切にしつつ、あと2日頑張ります。

（写真は物資を搬入したり、段ボール片付けする連合チーム。その上は受付の地元高校生3人組。左からなるみさん、たまみさん、みさきさん。その上は全電線チームと仲良しになったボランティアの皆さん。一番左はさとみさん、真ん中が差し入れをくれた遠藤さん。その隣りがみなみさん、遠藤さんの孫です。一番右はまさひろさん。ブログに載せないでって言われましたが、載せました。ごめんなさい）。



《素敵な出会い》 5月8日



今日は母の日。GWも最終日です。ただ避難者の多くはそんな余裕もない実態かと思えます。

来場者は393世帯とこのゾーンでは最小でした。

今夜は「ラストデーを頑張ろう会」を全電線の皆さんと開きました。本日のブログはこの中での話をまとめて掲載します。

「ようやく学生さん達とも打ち解けて来たよ」と山田さん。学生ボランティアのいい兄貴分になってました。今日は朝イチから物資の積み降ろしとかで走り回ってました。

明日からボランティアが減る見込みもあるため、センター内の流れを変えることになり、「レイアウトが変われば新鮮味あるよね」と片平さん。お帰り受付作業もすっかり板につき毎日来られる避難者（お母さん）からも「お姉さん大好き」って言われました。

「国は今すぐ必要な生活品目が足りてるから配送を止めてるらしい。社会福祉協議会を通じてもっと実態を届けたいね」と羽田さん。物資不足は本当に悩みの種。何とか改善したいです。ちなみに、羽田さんの段ボール縛りは学生達から「神業」と呼ばれていました（どんなにサイズや形が違うものでも、ちょっとの隙もなく縛ります）。

この6日間で気づいたことを皆で出しあって「次のチームに繋げるためにも気づいたことはちゃんと引き継ぎましょう」と児玉さん。毎日、班長が提出する報告書にちゃんと書きます。

「病院の場所とかがわかる情報提供も欲しいね」と田辺さん。確かにお店とか聞かれるから、特に連合のように県外から来るボランティアには欲しい情報です。ちなみに、田辺さんは寡黙ながら作業が追い付いてない場所にいち早く気付き、行動に移されています。

「会場で久しぶりって抱き合っている避難者の姿を見ると感動する」とは、主に入場案内を担当している小川さん。このセンターは避難者のコミュニティの場でもあります。

私たち産別チーム7名は、毎日朝から晩まで一緒に行動しているから、活動についての意見交換も盛り上がります。連合はあくまで後方支援だから前に出過ぎてはいけないし、かと言って黙っていても変わらないから難しいところです（※それぞれのプライベートも知りすぎましたが…）。

いよいよあと1日になりました。本当に素敵な出会いがたくさんありました。

残念ながら、全労金も全電線も次陣からはいわきBCに行きますので直接は引き継げませんが、地方連合会の皆さんが気持ちよく仕事できるように頑張ります。

（※写真は今日で最後になる学生ボランティアの皆さんとの楽しいショットと、物資と一緒に届けられたメッセージの一部です）。

《 終わりました(全電線チームの報告)》 5月9日

最終日の活動も無事に終わりました。伝えたいことはたくさんありますが、今後、いろんな場面で話していきます。

今日の報告は2回に分けます。まずは全電線チームの皆さんの感想兼報告です。



★山田肇さん(全電線) この度、全労金さんと同じグループで復興支援させて頂きました。全電線(古河電工労組)、田んぼ3兄弟次男の山田です。この度の活動を通じて、地域の人々の支えになればと考えていましたが、被災者の方から「ありがとう」「うちも頑張るよ、君も無理せず頑張っ」などと声を掛けて頂き、人は弱くない！一つづつ、一つづつ復興に向けて歩みを進めている！

と強く感じました。一人の力は僅かですが、集まれば大きな力になる事も今回、まざまざと感じました。「繋がろう」その思い一つに一つづつ前へ！今後も出来ることを、継続していきたいし、周囲にも「思い」を伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

★田辺奉和さん(全電線) これからも被災者の方々の心を思い続け、何か行動を起こしていきます。笑顔を取り戻せる日が一日も早く来ることを願っています。

★羽田徹さん(全電線中央執行委員・全電線の班長) 今回ボランティアに参加し、人と人との絆は出会った瞬間に深まり始める事と一期一会という言葉の大切さ、重要さを実感しました。あかの他人は明日の友！人生一度きりの中で、客観的に自分自身を見つめ、震災も見つめ、全ての出会いと、この短期間での経験と思い出、一生の宝です。人生一度きり、今しかないですよ。今こそ日本を一つに！気持ちを一つに！

3人ともすごく人間味がある人です。ボランティアの皆さんともすっかり仲良くなり今日は別れがとても辛そうでした。今回一緒に活動ができて本当に良かったです。ありがとう。またどこかで会いましょう。

(※写真は連合福島会津地協の遠藤さんを囲んで)

《終わり、そして繋がり》 5月10日



(最終更新が日付をまたいでしまい、申し訳ありませんでした。) 5月9日の来場者は527世帯。GW明けでもあり、少し賑わいました。また休み明けで、大熊町の活動も再開し、衣服や靴、食料品・お菓子等を大量に調達できました。午後から約3時間は大量の荷物を積み込んだり、運んだり、最終日にして初めての肉体労働でした。この物資を手にする来場者の顔が見られないのが少し残念ですが、明日以降も物資が届けばいいなあと切に願います。
センターを後にする時には、ボランティアの皆さんと写真を撮り、涙ながらのお別れでした。センターのボランティアの皆さん。お体に気をつけて、頑張ってください！私たちはこの繋がりを決して忘れません！

最後に全労金チーム3名の感想を掲載します。

★小川定弘 (九州労組)

この8日間センターで活動させていただきました。この間、センターに来場される方々、センターで活動されるボランティアの方々、全電線チームと、数多くの方々と交流を深め、新しい繋がりを作ることができました。一生の思い出に残る、貴重な体験だったと思います。この経験を大切に、これからも自分にできることをしていきたいと思います。

★児玉武雄 (中国労組・全労金中執)

実働7日間の活動が終了しました。決して自己の研鑽のために支援活動に参加したわけではありませんが、今まで経験した以上のことが得られました。人のぬくもり、優しさ、繋がり、そして強さ。チーム日本・チーム連合・チーム全労金。培った『絆』が必ず東北地方が復興することを確信しました。

★片平みどり (九州労組・全労金中執)

人は一人では生きられない！ということを改めて実感した7日間の活動でした。悲しい思い、やるせない思いもいっぱいでしたが、それ以上に人との繋がりを実感し楽しく活動しました。福島の地元のボランティアの皆さん、そして支援センターにお越しになった皆さん、ありがとうございました。

私たちが携わったこのセンターへの来場者のほとんどは、原発事故からの避難者です。自宅も無事、家財も日用品も家に帰れば何でもある、そしておそらく収入も蓄えもちゃんとあったと思います。しかし、あの日から理不尽にも不自由な生活を余儀なくされ、箱ティッシュ1つ、トイレットペーパー1つを取りに来なければならない状況になり、人間の尊

厳が深く傷つけられています最初はの方々との接し方に戸惑いがありましたし、活動の途中でも色々と悩みました。例えば、このセンターをもっと快適にしよう、機能性を持たせよう、等と考えた時に、究極的にはこのセンターが1日でも早く不要になることであり、そうした改善の意味がないのでは、とも思いました。その時に思い出したのが、東京を出発する際に、連合前の挨拶で述べた「被災者に寄り添って」でした。来場者の中には、物だけでなく人に触れあうことを目的としている方も少なくありません。現在の避難所がバラバラですから、このセンターで久しぶりの出会いを喜びあう光景も多く目にしました。そうした皆さんにとっては、まさにこのセンターが「希望の光」なのです。そう考えれば、例えば明日、センターが不要になったとしても、今日一日だけ明るい気分になってもらうために、自分たちの活動の意味があると思うようにしました。実際にはまだまだ長い道のりです。だからこそ、連合（全労金）の活動を一日一日と“繋げる”ことが大事なのです。

全労金の第三陣はいわきに行き、そこでまた新たな任務に就きます。活動内容は変わりますが、それぞれの気持ちをひとつにして、復興への繋がりに結びつけていきましょう！
つながろうNIPPON！つなげよう全労金
ありがとうございました。（全労金書記長・河野哲也）

以 上